

科目名	生徒・進路指導論			担当教員	吉田 琢哉
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2EPG105
期待される学修成果	子ども理解 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	生徒指導および進路指導の意義や理論を学ぶことにより、学校生活の中でそれらを活かすための具体的な方法について考えることを全体のテーマとする。授業の到達目標は次の3点である。(1)生徒指導や進路指導にかかわる資料を正しく読める、(2)生徒指導やキャリア教育の目的、意義や機能、今日的課題を説明できる、(3)生徒指導やキャリア教育の基礎的知識を踏まえ、具体的事例についてグループで議論しながら考察を深めることができる。				
授業の概要	生徒指導、進路指導ともに具体的事例を示しながら、子どもたちを取り巻く現代社会の変化を理解し、踏まえながら考察を進めていく。生徒指導については、生徒指導にかかわる資料を読み解き、生徒理解を助ける理論を理解した上で、具体的事例について考察していく。進路指導についても具体的事例をまじえ、キャリア教育の理念および具体的な方法や指導体制について考察を深めていく。				

授業計画	
第1回	生徒指導・進路指導とは
第2回	生徒指導提要のポイント
第3回	教育現場の変化Ⅰ～Society 5.0
第4回	教育現場の変化Ⅱ～地域との連携
第5回	教育現場の変化Ⅲ～教員の働き方
第6回	学級集団の理解Ⅰ～友人関係
第7回	学級集団の理解Ⅱ～他者からの影響
第8回	学級集団の理解Ⅲ～学級内の人間関係
第9回	いじめ・不登校
第10回	攻撃のメカニズム
第11回	コミュニケーションのスキル
第12回	ストレスや葛藤への対処
第13回	キャリア教育の概念と目的
第14回	キャリア教育の進め方
第15回	自己肯定感・自己有用感につながる進路指導・キャリア教育

事前学修	2時間	事前に配布した読解資料を精読しておくこと。
事後学修	2時間	小課題を課すので、講義内容を復習しながら課題に取り組むこと。
フィードバックの方法	レポートや小課題の内容について提出後の授業で解説する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	50%	授業内容の理解度
レポート	30%	授業の中で2本のレポート課題を出す。授業内容を踏まえたレポートの作成が求められる。
上記以外の試験・平常点評価	20%	授業内の小課題に対する取り組み等により評価する。

補足事項	参考資料を以下に示す。 『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29 年 3 月告示、内閣府）、『小学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）、『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示、文部科学省）、『高等学校学習指導要領』（平成 30 年 3 月告示、文部科学省）、『生徒指導提要（改訂版）』（令和4年12月改訂、文部科学省）、『小学校キャリア教育の手引き-小学校学習指導要領（平成29年告示）準拠-(令和4年3月改定、文部科学省)』、『中学校・高等学校キャリア教育の手引き-中学校・高等学校学習指導要領（平成29年・30年告示）準拠-(令和5年3月、文部科学省)』
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	字数制限によりこの欄に掲載しきれないため、上記の「補足事項」を参照のこと。			

科目名	生徒・進路指導論			担当教員	成田 絵吏	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2EPG105
期待される学修成果	子ども理解 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	臨床心理士・公認心理師					
実務経験を生かした授業内容	スクールカウンセラーとしての勤務の経験を活かし、児童生徒への指導、対応について講義する。					
到達目標及びテーマ	生徒指導および進路指導の意義や理論を学ぶことにより、学校生活の中で、それらをどのように活かしていくかの具体的な方法について考えることを全体のテーマとする。授業の到達目標は、学んだことを基に、自分が経験してきた生徒指導事例とキャリア教育事例をまとめ、それらをグループ討議で発表し、討議することにより、多くの経験事例から理論的背景との融合を目指すことである。					
授業の概要	生徒指導の意義や方法に関する心理学的な考え方を提示する。児童生徒の肯定的な自己感の育成や集団規範を非行やいじめの問題と関連させて論じる。教員組織の連携のあり方や保護者対応についても示す。キャリア教育の意義や方法に関する心理学的な理論や方法を述べる。地域との連携を重視したコミュニティ・スクールによるキャリア教育についても紹介する。					

授業計画	
第1回	講義全体の概要と学習目票の理解
第2回	生徒指導とは何かーその位置づけと意味づけー
第3回	児童生徒の非社会的行動(不登校)の理解と指導のあり方
第4回	児童生徒の反社会的行動(暴力・非行)の理解と指導のあり方
第5回	児童生徒の人間関係（現実およびインターネット上）と対人ストレス
第6回	集団規範の成立とその効用
第7回	いじめ問題のメカニズムと対策
第8回	教師のリーダーシップと校内連携のあり方
第9回	その他の生徒指導に関する諸課題について
第10回	進路指導・キャリア教育とは何かー位置づけと意味づけー
第11回	進路指導・キャリア教育を支える理論
第12回	生涯にわたって個人と社会を結ぶためのキャリア教育
第13回	キャリア・デザインとキャリア発達支援
第14回	さまざまなキャリア教育の実践（コミュニティ・スクールを含む）
第15回	進路指導・キャリア教育に関する諸課題について

事前学修	2時間	次回の講義内容をめぐって知っていること、イメージをまとめ、書籍やインターネットなどを用いて調べる。また、講義前に資料がある場合はそれを熟読する。
事後学修	2時間	講義の内容をふりかえり、重要点や自分の考えをまとめる。自分が関心を持ったキーワードなどを調べて理解を広げる。
フィードバックの方法	講義内容や小課題（毎回講義終了時に提出するふりかえりシート等）について、希望があればフィードバックの機会を設ける。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	知識ならびに理解度
上記以外の試験・平常点評価	20%	講義内に課す小課題等への取り組み
補足事項	・毎回の授業ではQRコード等を用いて感想、意見を出してもらうため、スマートフォン等を持参する。また授業内に行うワーク（個別・グループ）について積極的に取り組み、特にグループワークにおいては活発な議論を期待する。	

	・試験は大学の定期試験実施期間に行う（16回目に該当するが、日時等変更の可能性はある）。試験に際して大学の履修要覧等の記載事項を守り、欠席回数が全授業数の3分の1を超える、試験当日の試験開始20分以上の遅刻は受験を認めない。
--	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	小・中・高等学校学習指導要領、生徒指導提要			

科目名	生徒・進路指導論			担当教員	後藤 綾文	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2EPG105
期待される学修成果	子ども理解 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	臨床心理士・公認心理師					
実務経験を生かした授業内容	スクールカウンセラーとして小中学校に勤務してきた経験を生かし、子どもへの指導、対応について講義する。					
到達目標及びテーマ	生徒指導および進路指導の意義や理論を学ぶことにより、学校生活の中でそれらを活かすための具体的な方法について考えることを全体のテーマとする。授業の到達目標は次の3点である。(1)生徒指導や進路指導にかかわる資料を正しく読める、(2)生徒指導やキャリア教育の目的、意義や機能、今日的課題を説明できる、(3)生徒指導やキャリア教育の基礎的知識を踏まえ、具体的事例についてグループで議論しながら考察を深めることができる。					
授業の概要	生徒指導、進路指導ともに具体的事例を示しながら、子どもたちを取り巻く現代社会の変化を理解し、踏まえながら考察を進めていく。生徒指導については、生徒指導にかかわる資料を読み解き、生徒理解を助ける理論を理解した上で、具体的事例について考察していく。進路指導についても具体的事例をまじえ、キャリア教育の理念および具体的な方法や指導体制について考察を深めていく。					

授業計画	
第1回	講義全体の概要と学習目標の理解
第2回	生徒指導とは何かーその位置づけと意味づけー
第3回	生徒指導の意義・機能
第4回	生徒指導の方法
第5回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導
第6回	生徒指導の体制
第7回	児童生徒の人間関係
第8回	いじめ問題のメカニズム
第9回	いじめ問題の対策
第10回	不登校の問題と対策
第11回	進路指導・キャリア教育とは何かーその位置づけと意味づけー
第12回	進路指導・キャリア教育を支える理論
第13回	キャリア教育の進め方
第14回	さまざまなキャリア教育の実践
第15回	受講生の進路指導・キャリア教育に関する経験的事例を基にしたグループ討議

事前学修	2時間	事前に配付した資料を精読しておくこと。
事後学修	2時間	小課題を課すので、講義内容を復習しながら課題に取り組むこと。
フィードバックの方法	レポートや小課題の内容について提出後の授業で解説する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	70%	重要語句の意味や定義の理解、および生徒指導・進路指導の方法に関する理解をはかる。
レポート	20%	授業の中でレポート課題を出す。授業内容を踏まえたレポートの作成が求められる。

上記以外の試験・平常点評価	10%	授業内の小課題に対する取り組み等により評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領 生徒指導提要（改訂版） 小学校キャリア教育の手引き 中学校・高等学校キャリア教育の手引き			

科目名	生徒・進路指導論			担当教員	中島 葉子	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2EPG105
期待される学修成果	子ども理解 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	生徒指導と進路指導の理論および方法について検討をする。本授業では近視眼的にならず全体を見ることを目指し、HowばかりでなくWhyを考えることを大切にする。一方で具体的事例をもとに考える場面を設定し、実際の難しさを知るとともにそこでどのように指導できるかを考えていく。到達目標は次の3点である。(1)生徒指導や進路指導にかかわる資料を正しく読める、(2)生徒指導やキャリア教育の目的意義や機能、今日的課題を説明できる、(3)生徒指導やキャリア教育の基礎的知識を踏まえ、具体的事例について仲間とともに議論しながら考察を深めることができる。					
授業の概要	生徒指導、進路指導ともに具体的事例を示しながら、子どもたちを取り巻く現代社会の変化を理解し、踏まえながら考察を進めていく。生徒指導については、まず生徒指導にかかわる教育統計の見方を学び、生徒理解を助ける理論を理解した上で、具体的事例について考察していく。進路指導については、キャリア教育の立場からとくに中等教育における進路指導・キャリア教育の理念および具体的な方法や指導体制について考察を進めていく。					

授業計画	
第1回	イントロダクションー教育問題とは何か
第2回	生徒指導にかかわる教育統計ーいじめ・不登校・暴力行為
第3回	生徒指導の意義と課題(1)ー意義・機能
第4回	生徒指導の意義と課題(2)ー課題（体罰・懲戒）
第5回	生徒指導の方法
第6回	生徒指導の体制
第7回	生徒理解(1)ーいじめ
第8回	生徒理解(2)ーいじめ事例討議
第9回	生徒理解(3)ー不登校
第10回	生徒理解(4)ー不登校事例討議
第11回	進路指導とキャリア教育
第12回	キャリア教育の目標と方法
第13回	キャリア教育の実践(1)ー特別活動・キャリアカウンセリング
第14回	キャリア教育の実践(2)ーキャリア教育事例討議
第15回	まとめ

事前学修	2時間	第1回：シラバスの熟読及び生徒指導・進路指導に関する資料の探索と読了、第2、8、10、14回：事前配付資料の読了と考察、第3-5回：学習指導要領の読了、第6回：参考資料①の読了、第7回：参考資料②の読了、第9回：参考資料③の読了、第11-13回：参考資料④の読了、第15回：全体を見直し理解できていない箇所をまとめる
事後学修	2時間	毎回、授業を通して学んだことのまとめと考察、および授業中に出された課題を行い提出
フィードバックの方法	事後学習課題の返却、討議・レポートへのコメント	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	60%	重要語句、またその意味や定義の理解、および生徒指導・進路指導に関する方法に関する理解をはかる

レポート	30%	事例討議の内容のまとめ、および講義内容・グループ討議・配付資料を踏まえた自分の考察（10%×3回）
上記以外の試験・平常点評価	10%	事後学習課題の提出
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、生徒指導提要、①志水宏吉，2008,『公立学校の底力』筑摩書房、②森田洋司・清永賢二，1994,『いじめ―教室の病い 新訂版』金子書房、③貴戸理恵，2004,『不登校は終わらない』新曜社、④児美川孝一郎，2013,『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書。			